

如月：第11話「横浜芸術館」

教室の後ろに、各学年、表現する題材を工夫して、自分の感じたことを素直に絵画や習字で表現していました。

左は、絵筆の使い方の練習がてらお好み焼きを描いた作品です。お好み焼きを食べた時に何が入っていたのかを思い出し、卵やキャベツなどの食材をかきこみました。上からソースをかけて出来上がりです。重ねぬりのよさも味わいました。



右の絵は、国語科で「かさこじぞう」を学習したことをもとに、イメージをふくらませたものです。しんしんと降る雪を描いている子が多い中、横なぐりの吹雪のような作品が目にとまりました。以前、「**絵画指導は、技能と感性のかけ算である**」と教えていただいたことを思い出しました。技能と感性の指導の度合いを10段階で考えると、いちばん積（かけざんの答え）が大きいのは技能と感性がともに5のときの、 $5 \times 5 = 25$ となります。とにかく技能指導に目が行きがちですが、“教えすぎてもダメ、教えなさすぎてもダメ”ということだそうです。

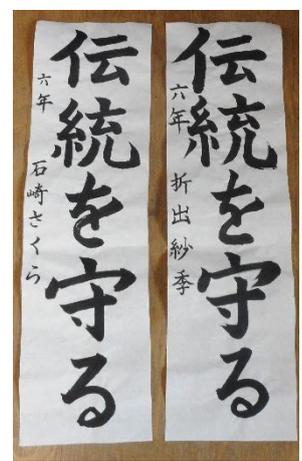
それから、多色刷り版画3点です。



左は、幾何学模様のくじゃくの羽と背景が同化したファンタジックな作品です。色とりどりの孔雀の羽が、画面いっぱいに広がり、目に鮮やかにうつります。

また、浮世絵は、独特の大胆な輪郭線と繊細な色彩表現で、江戸時代の文化を的確に表しています。社会科の学習で学んだ江戸時代の文化を子どもたちなりに考えて表現しています。

3年生以上は、書初めを行いました。半紙の大きさに負けないように、力強く書かれている作品が多くありました。漢字とひらがなで、字の大きさを変えることで、お互いが主張しあいながら一つの作品が出来上がっています。自分の名前もお手本を参考にして、一文字一文字でいねいに書きました。



子どもたちのもつ感性に驚きながら、教室に掲示された作品を見てまわるのは楽しいものです。

校長 寺岡 成希